

地域医療への思い 腰痛サポートダイヤル への思い その①

厚生労働省が発表している地域医療構想では、2013年を基準とした滋賀県の2025年時点での回復期病棟の対象患者予想は+27.4%の増加とされており、高度急性期、急性期、慢性期に比べて顕著な伸び率を示しています。大津市においては、+30.5%と更に高い伸び率が報告されています。それは、大津市の後期高齢者（75歳以上）の割合が、滋賀県の中でも突出して高い（2010年比で2025年には+78.2%の伸び）からです。つまり、がん、脳卒中、肺炎、骨折などの高齢者で多発する疾患が一貫して増加し、その回復期リハビリテーション（以下、回りハと略）需要が急増するためです。急性疾患を克服した患者を住み慣れた家庭に返すのが厚生労働省の進めている‘地域包括ケアシステム’です。しかし、若年者と違って高齢者では急性期の療養中に安静を保つ必要がありますが、他方では、安静により身体機能の廃用が進むために、急性期、高度急性期病院から自宅に直接帰ることができないのです。回りハ病棟の需要が高まっている理由はそこにあり、その点で回りハは地域包括ケアシステムに必須で中核をなすものです。その回りハで、最も多くの対象患者として考えられているのが骨折です。その代表として、大腿骨頸部骨折が挙げられますが、その発症予測では、2013年を基準にして2025年では、実に71.4%と見積もられています。この数字は、まさに後期高齢者割合とほぼ同じで、加齢とともに進む身体機能の低下と骨

粗鬆症の進行によるもので議論の余地はありません。骨折の中で、非常に多いのが脊椎圧迫骨折です。高齢者で背中が曲がった円背の方々は間違いなく脊椎圧迫骨折を経験された方です。‘ぎっくり腰’はよく経験することですが、欧米では“魔女の一撃”と表現されるように一瞬で動けなくなるほどの強い痛みです。脊椎圧迫骨折も同様で非常に強い痛みを伴います。若ければ、全身の筋力が強いので、何とか腰に衝撃を与えないようにトイレ動作などがかるうじて可能ですが、高齢者の場合には例外なくほぼ全介助となります。このことは、家族にとっては大変な負担になりますし、介護の経験がない家族では途方に暮れることでしょう。その上、近年の社会状況では、核家族化が急速に進んでおり、老夫婦での生活環境にある例が圧倒的に多いことから老々介護にならざるを得ないのです。このように、脊椎圧迫骨折患者の多くが行き場のない“難民”となって苦しい日々を送っておられるのが実態のようです。

そこで、当院では、これらの難民を掘り起こして救済すべく「腰痛サポートダイヤル」と称する、地域連携部への直通電話を設置して情報を収集するシステムを構築致しました。この情報を高度急性期病院の救急診療部だけでなく、整形外科医院やケアマネージャーの方々にも周知すべく広報致しております。（次号に続く）

院長 高橋 伯夫

腰痛サポートダイヤル
090-2382-8432
受付時間 9:00~15:30
（月曜日～金曜日、除く祝祭日）

腰痛サポートカー
病院外来・診療所からの
直接依頼に対応します
遠方の場合は・・・
介護タクシーを手配します

